

静岡県立大学短期大学部  
特別研究報告書(平成 15・16 年度)一

我が国における介護保険制度の導入の実態と今後の課題  
中学・高等学校の教科書に見られる介護保険制度の記述を手がかりとして

The Actual Circumstances of the Introduction  
of the Nursing Care Insurance System in Our Country and Its Future Challenges

—Descriptions of the Nursing Care Insurance System in Textbooks  
for Junior and Senior High Schools as a Clue to Understanding—

小川亜矢 深江久代 今福恵子

Aya, Ogawa Hisayo, Fukae Keiko, Imafuku

I. 緒言

1. 研究背景

我が国の急速な高齢化は、2000年4月からの介護保険導入など、今や国策を講じて解決すべき主要な社会問題となっている。日本における高齢化の将来推計をみると、現在中学・高等学校の生徒が高齢者となる時代には、日本全体の高齢化率は32.3%を占める<sup>1)</sup>とされている。今後の日本を背負う現代の若者は高齢化問題に関心を示し、より積極的に関わっていくことが強く求められている。

日本において、高齢者を介護するのは家族、特に女性であるという風潮がある<sup>2)</sup>。このことは今なお根強く残っており、要介護者から見た主な介護者の71.1%が同居している家族<sup>3)</sup>である。介護の負担は要介護者の家族、特に配偶者、子ども、子どもの配偶者に集中する<sup>3)</sup>という現状は、日本独特の福祉社会に対する考え方として根強く残っている。また今後期待される要介護者を隣近所など「地域の視点」で見て行くという姿勢においては、地域により格差があった。このような背景から「社会全体による介護」への転換が必要であり、介護保険の導入は、今までの日本の福祉社会に対する考え方から欧米の自立型、相互扶助型の福祉への方向性の転換でもあると言える。社会全体で支えて介護していくという考え方は、ただ単に行政による福祉施設の充実や老人医療制度の改善だけでなく、ボランティアによるアクティビティーケアや、地域で赤ちゃんから高齢者、障害のある人や健康な人など、すべての健康レベルの人々が交流できる場の充実等にも目を向け、地域全体

で考えていくことである。

福祉社会は「責任を持つことができる自立した個人」をサポートするような社会であり、その際の福祉は「個人が自由意志で生きるための、相互扶助のしくみ」が充実していなければならない。相互扶助による社会福祉を実現するためには、家庭内や学校における福祉に関する教育のあり方が重要となってくる。

近年、中学校や高等学校の正規授業に要介護老人の介助などの福祉実習を取り入れたり<sup>4)5)6)</sup>、大学においてもボランティアの活動を積極的に行い<sup>7)8)9)10)11)12)</sup>単位として認めるところも出てきている。また教職免許法の改正により2003年度から新教育課程が適用され高等学校の免許教科として「福祉」が新設されたり、1990年代からは高等学校の教科である家庭の中で、福祉の内容を学べる機会が多くなってきている。福祉が従来の限られた人への保護救済だけではなく、高齢者福祉と介護を中心にどの人も福祉と関わりを持つ時代となり、広く高校教育の中で、どの生徒に対しても福祉を学んでもらうことが必要になったといえる。

現在の少子高齢化社会において福祉を学ぶことが必要不可欠となってきた。我々の世代は勿論のこと、次世代を生きる人々のためにも今こそ社会保障を真剣に考え、行動する時期である。

## 2. 研究目的

介護保険制度は、今までの措置的な制度ではなく、利用者自らがサービスの内容を選択していく新しい高齢時代の制度である。一方で、施行していく中で発見されてきた多くの問題点も指摘されている。中学・高等学校の生徒は将来にかけて、これらの問題に積極的に関わっていく世代に当たる。世界でもっとも早く高齢化が進行した日本が、適切な高齢対策をもって迅速に対応していくことは差し迫った課題となっている。そのために果たす教育の役割は極めて大きい。

そこで、本研究では介護保険制度を次世代に伝える中学・高等学校の教科書の記述を手がかりにして、今後中学・高等学校において伝えていくべき内容について検討する。現在のところ介護保険制度は、中学校の社会の公民的分野、高等学校の家庭、高等学校の公民の中の現代社会、倫理、政治・経済という科目の中で教えられている。教科書はその時代を映す標準的なものであるが、必ずしも各教科書の内容は同じではない。

本論文の特徴は、日本における急激な高齢化に対応するために、「どのように次世代を担う中学・高等学校の生徒を教育すればよいか」、その今日的な課題を介護保険の現状を把握した上で、教科書を手がかりに検討する点である。数多い福祉に関する教育のなかでも、特に介護保険制度に焦点を絞ることにより、具体的な教育的提言ができるといえる。

## Ⅱ. 中学・高等学校教育の中の介護保険制度

### 1. 教科書の位置づけ

#### 1) 中学校

中学校用の教科書は、「教科書の発行に関する臨時措置法」第6条第1項の規定により、指定教科書発行者の届出に基づき文部科学省において検定し、発行されたものである。義務教育諸学校において使用する教科書は、「義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律」第13条第5項等の規定により、すべて教科書目録に登載された教科書のうちから採択しなければならない(学校教育法第107条の規定による教科用図書を除く)という規定がある<sup>13)</sup>。

#### 2) 高等学校

高等学校用の教科書は、「教科書の発行に関する臨時措置法」第6条第1項の規定により、教科書発行者の届出に基づき文部科学省において検定し、発行されたものである。現在用いられている高等学校用教科書は、新学習指導要領(平成11年文部省告示第58号)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書と、第2学年以上に用いられる従来の学習指導要領(平成元年文部省告示第26号)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書がある。

この2種類の教科書は、文部科学省のホームページにおいて記載されている「高等学校用教科書目録(平成16年度の使用)」において、第1部(新学習指導要領(平成11年文部省告示第58号))、第2部(学習指導要領(平成元年文部省告示第26号))に区分されている<sup>14)</sup>。

## 2. 中学・高等学校の介護保険制度の教育内容－学習指導要領

### 1) 学習指導要領とは

学習指導要領とは、学校教育において全国的に一定の教育水準を確保し、全国どこにおいても一定水準の教育を受ける機会を国民に保障することが要請されていることから、学校において編成される教育課程について、国として大綱的に設けている基準のことである。学習指導要領は、国民として共通に身に付けるべき学校教育の目標や内容を示した国の基準であり、各学校においては、この学習指導要領に基づき、教育課程を編成することになる。小・中学校学習指導要領総則でも、学習指導要領に示す各教科等の内容は、「特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない」としている。

文部省では、平成10年12月14日に幼稚園教育要領、小学校及び中学校学習指導要領を、平成11年3月29日に高等学校学習指導要領、盲学校、聾学校及び養護学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領を告示した。また、文部科学省では、平成15年12月26日に、学習指導要領の更なる定着を進め、そのねらいの一層の実現を図るために、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、

盲学校、聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領並びに盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領の一部改正を行った<sup>16)</sup>。

完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、子どもたちに学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることはもとより、自ら学び自ら考える力など「生きる力」をはぐくむ教育が進められるような内容になっている。具体的には授業時数の縮減と教育内容の厳選、個に応じた指導の充実、体験的・問題解決的な学習活動の重視、総合的な学習の時間の創設、選択学習の幅の拡大などがある。

## 2) 学習指導要領に記載されている目標

介護保険について書いてある教科書であっても、その取り上げ方や取り上げる内容というものは中学校と高等学校、教科によって異なってくる。それは学習指導要領において求められているもの、目標が異なるからである。その各教科の目標の内容についてあげてみる。

### (1) 中学校の公民

中学校の社会における公民的分野(以下公民と略す)では、以下の4つの目標があげられる<sup>16)</sup>。

- ・個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- ・民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- ・国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- ・現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

### (2) 高等学校の家庭

高等学校の家庭は、家庭という教科が家庭基礎、家庭総合、生活技術の各科目に分かれそれぞれ目標が上げられている。「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」という大きな目標のもとに3つの区分それぞれの各科目に目標があげられている<sup>17)</sup>。

### (2)－1 家庭基礎

家庭基礎では「人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」を目標としている。

### (2)－2 家庭総合

家庭総合では「人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」を目標としている。

### (2)－3 生活技術

生活技術では「人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」を目標としている。

## (3) 高等学校の公民

高等学校の公民では、「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」という大きな目標のもとに3つの区分それぞれの各科目に目標があげられている<sup>10)</sup>。

### (3)－1 現代社会

現代社会では、「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」を目標としている。

### (3)－2 倫理

倫理では「人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」を目標としている。

### (3)－3 政治・経済

政治・経済では「広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」を目標としている。

## 3) 学習指導要領に記載されている内容

学習指導要領の目標が各教科において異なっているため、それに伴い内容も教科ごとに特徴がある<sup>19)</sup>。

#### (1) 中学校の公民

中学校の公民では「現代社会と私たちの生活」、「国民生活と経済」、「現代の民主政治とこれからの社会」の3つの内容に分かれている<sup>19)</sup>。「現代社会と私たちの生活」では、現代日本の発展の過程と国際化の進展のあらましについて理解させるとともに、現代社会の特色に気付かせたり、現在の日本において家族や地域社会などの機能を扱い、人間は本来社会的存在であることに着目させ、個人と社会とのかかわりについて考えさせる内容が含まれている。「国民生活と経済」は、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させたり、国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせる内容となっている。

「現代の民主政治とこれからの社会」では、人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義についてや、地方自治の基本的な考え方、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力が大切であることを認識させるといった内容を含んでいる。

#### (2) 高等学校の家庭

##### (2) - 1 家庭基礎

家庭基礎は「人の一生と家族・福祉」、「家族の生活と健康」、「消費生活と環境」、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の4つの内容に別れている。

「人の一生と家族・福祉」では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させることに主眼をおき、生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解や青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について、乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について、高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉についての理解を取り上げている。

「家族の生活と健康」では、家族の食生活、衣生活及び住生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を主眼におき、栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術の習得、被服の機能と着装、被服材料、被服管理などに関する基礎的な知識と技術の習得、住居の機能、住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識と技術を習得について取り上げている。

「消費生活と環境」では、家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、消費者として責任をもって行動できることを主眼におき、家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任についての理解、現代の消費生活と環境とのかかわりについての理解を取り上げている。

また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」も内容に含まれている。

## (2)－2 家庭総合

家庭総合は以下の6つの内容に別れている。

「人の一生と家族・家庭」では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについての理解や、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させることを取り上げている。具体的内容としては、生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについての認識や、家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについての理解、青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考える、などである。

「子どもの発達と保育・福祉」では、子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて理解させるとともに、子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識させ、保育への関心をもたせる内容となっており、母体の健康管理と子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴及び子どもの生活と遊びについての理解、親の役割と子どもの人間形成及び親の保育責任とその支援についての理解、子どもが健全に育つことをねらいとした児童福祉の基本的な理念についての理解などをとりあげている。

「高齢者の生活と福祉」では、高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解させるとともに、介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させることに主眼をおいている。

「高齢者の心身の特徴と生活」では、加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかかわりについて考えさせる。具体的には、高齢社会の現状と課題について考えさせ、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについての理解、日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミュニケーションの重要性について認識させ、高齢者と適切にかかわることができるようにすることがあげられている。

「生活の科学と文化」では、衣食住の生活を科学的に理解させるとともに、衣食住に関する先人の知恵や文化を考えさせ、充実した衣食住の生活を営むことができるようにすることに主眼をおき、栄養、食品、調理などについて科学的に理解させること、被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させること、住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解させること、衣食住にかかわる生活

文化の背景について理解させるとともに、生活文化に関心をもたせ、それを伝承し創造しようとする意欲をもたせることがとりあげられている。

「消費生活と資源・環境」では、家庭の経済生活、消費者の権利と責任などについての理解させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、資源や環境に配慮し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任をもって行動できるようにすることを主題とし、消費行動における意思決定の過程とその重要性についての理解や、家庭経済と国民経済とのかかわりについての理解、消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任及び生活情報の収集・選択と活用についての理解、現代の消費生活と資源や環境とのかかわりについての理解などがあげられている。

また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」も内容に含まれている。

### (2)-3 生活技術

生活技術は以下の7つの内容に別れている。

「人の一生と家族・福祉」では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させることを主題にしている。具体的には生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えることや、乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉についての理解、高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉についての理解などである。

「消費生活と環境」では、家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、消費者として責任をもって行動できることをあげており、家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任についての理解や、現代の消費生活と環境とのかかわりについての理解などがあげられている。

「家庭生活と技術革新」では、科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響について理解させ、家庭生活の充実を図るためのコンピュータの活用や家庭用機器の適切な管理と活用ができるようにすることを主題にしている。具体的には、家庭生活の変化は科学技術の進展と大きくかかわっていることへの理解、高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについての理解、家庭用機器の機能と活用及び安全と管理についてへの理解などである。

「食生活の設計と調理」では栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、充実した食生活を営むことができるようにすることをあげている。例えば家族の食生活の現状と課題について考えさせ、健康と栄養とのかかわりについてへの理解や、食品の栄養的特質と調理上の性質について手の理解、食生活環境の変化及び食生活の安全と衛生についての理解などである。

「衣生活の設計と製作」では、被服の着装、製作、管理などに関する知識と技術を習得



させ、充実した衣生活を営むことができるようにする。

「住生活の設計とインテリアデザイン」は、住居の機能、設計、管理などに関する知識と技術を習得させ、充実した住生活を営むことができるようにする。

「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」というものもある。

### (3) 高等学校の公民

#### (3) - 1 現代社会

現代社会では以下の2つの内容に別れている。

「現代に生きる私たちの課題」では、現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。

「現代の社会と人間としての在り方生き方」では、現代社会について多様な角度から理解させるとともに、青年期の意義、経済活動の在り方、政治参加、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割などについて自己とのかかわりに着目して考えさせることを主眼にしている。例えば、大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化についての理解、現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全についての理解、基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全についての理解、世界の主な国の政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛、資本主義経済と社会主義経済の変容、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題についてへの理解などである。

#### (3) - 2 倫理

倫理は以下の2つの内容に別れている。

「青年期の課題と人間としての在り方生き方」は、自己の生きる課題とのかかわりにおいて、青年期の意義と課題を理解させるとともに、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせることを主題にしている。例えば、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせることや、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせることなどである。

「現代と倫理」は、現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせることをあげている。例えば、現代の倫理的課題を大局的にとらえさせ、今日に生きる人間の課題について理解させることや、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせること、生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせることなどである。

### (3)－3 政治・経済

政治・経済は以下の3つの内容に別れている。

「現代の政治」は、現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

「現代の経済」は、現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

「現代社会の諸課題」は、政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させることを主題においている。具体的には大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて考察させることや、地球環境問題、核兵器と軍縮、国際経済格差の是正と国際協力、経済摩擦と外交、人種・民族問題、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて考察させることである。

## 3. 中学・高等学校の教科書が記述する介護保険制度

### 1) 研究対象教科書の内訳(中学校)<sup>20)</sup>

本研究において対象とした教科書は、以下の教科書である(表1)。

表1 中学校用—教科書の教科別の種類数と点数と介護保険に関する記述の有無

(平成14～17年度使用)

| 教科        | 種類数 | 点数 | 記述あり | 教科          | 種類数 | 点数  | 記述あり |   |
|-----------|-----|----|------|-------------|-----|-----|------|---|
| 国語        | 5   | 15 | ○    | 音楽(一般)      | 2   | 6   |      |   |
| 書写        | 8   | 16 |      | 音楽(器楽合奏)    | 2   | 2   |      |   |
| 社会(地理的分野) | 7   | 7  |      | 美術          | 3   | 9   |      |   |
| 社会(歴史的分野) | 8   | 8  |      | 保健体育        | 3   | 3   |      |   |
| 社会(公民的分野) | 8   | 8  |      | 技術・家庭(技術分野) | 2   | 2   |      |   |
| 地図        | 2   | 2  |      | 技術・家庭(家庭分野) | 7   | 21  |      |   |
| 数学        | 6   | 18 |      | 英語          |     |     |      |   |
| 理科(第一分野)  | 5   | 10 |      | 合計          | 75  | 139 |      | 1 |
| 理科(第二分野)  | 5   | 10 |      |             |     |     |      |   |

\*「記述あり」とは、介護保険に関する記述のあった教科書をしめす。

2) 研究対象教科書の内訳(高等学校)<sup>21)</sup>

今回の研究対象には第1部の新学習指導要領に基づいて編集された文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書を対象とした。

今回調査対象とした第1部記載の教科書とは、新学習指導要領(平成11年3月29日文部省告示第58号)に基づいて編集されたもので、この学習指導要領の適用を受ける平成15年度入学生徒から使用するものである。ただし、これらの生徒が使用しようとする教科書が第1部にはない場合には、第2部から採択することができる仕組みとなっている。

また、第1部記載の教科書の教科別の種類数・点数、介護保険に関する記述の有無は、別表のとおりである(表2)。

表2 高等学校用一教科書の教科別の種類数と点数と介護保険に関する記述の有無

| 教科           | 検定済み<br>教科書 |    | 教科             | 検定済み<br>教科書 |     |
|--------------|-------------|----|----------------|-------------|-----|
|              | 種類          | 点数 |                | 種類          | 点数  |
| ○普通教育に関する各教科 |             |    | 音楽Ⅰ            | 6           | 6   |
|              |             |    | 音楽Ⅱ            | 5           | 5   |
|              |             |    | 美術Ⅰ            | 3           | 3   |
|              |             |    | 美術Ⅱ            | 2           | 2   |
| 国語表現Ⅰ        | 7           | 7  | 工芸Ⅰ            | 1           | 1   |
| 国語表現Ⅱ        | 7           | 7  | 工芸Ⅱ            | 1           | 1   |
| 国語総合         | 20          | 24 | 書道Ⅰ            | 7           | 7   |
| 現代文          | 21          | 21 | 書道Ⅱ            | 7           | 7   |
| 古典           | 19          | 25 | オーラルコミュニケーションⅠ | 19          | 19  |
| 古典講読         | 3           | 3  | オーラルコミュニケーションⅡ | 7           | 7   |
| 世界史A         | 11          | 11 | 英語Ⅰ            | 35          | 35  |
| 世界史B         | 11          | 11 | 英語Ⅱ            | 35          | 35  |
| 日本史A         | 7           | 7  | リーディング         | 14          | 37  |
| 日本史B         | 11          | 11 | ライティング         | 15          | 14  |
| 地理 A         | 7           | 7  |                |             | 15  |
| 地理 B         | 5           | 5  | 家庭             | 19          | 19  |
| 地図           | 8           | 8  | 情報             | 31          | 31  |
| 現代社会         | 16          | 16 | ○専門教育に関する各教科   |             |     |
| 倫理           | 11          | 11 | 農業             | 20          | 20  |
| 政治・経済        | 15          | 15 | 工業             | 61          | 71  |
|              |             |    | 商業             | 26          | 26  |
|              |             |    | 水産             | 2           | 2   |
| 数学基礎         | 5           | 5  | 家庭             | 6           | 6   |
| 数学Ⅰ          | 20          | 20 | 情報             | 4           | 4   |
| 数学Ⅱ          | 20          | 20 | 福祉             | 8           | 8   |
| 数学A          | 20          | 20 |                |             |     |
| 数学B          | 19          | 19 | ○文部科学省著作教科書    |             |     |
| 数学C          | 15          | 15 | 農業             | 7           | 7   |
|              |             |    | 工業             | 12          | 12  |
|              |             |    | 水産             | 9           | 13  |
| 理科基礎         | 4           | 4  | 家庭             | 5           | 5   |
| 理科総合A        | 10          | 10 | 看護             | 4           | 6   |
| 理科総合B        | 9           | 9  |                |             |     |
| 物理Ⅰ          | 9           | 9  |                |             |     |
| 物理Ⅱ          | 7           | 7  |                |             |     |
| 化学Ⅰ          | 12          | 12 |                |             |     |
| 化学Ⅱ          | 7           | 7  |                |             |     |
| 生物Ⅰ          | 12          | 12 |                |             |     |
| 生物Ⅱ          | 6           | 6  | 合計             |             | 765 |

|      |   |   |  |     |  |
|------|---|---|--|-----|--|
| 地学Ⅰ  | 5 | 5 |  | 737 |  |
| 地学Ⅱ  | 2 | 2 |  |     |  |
| 保健体育 | 5 | 5 |  |     |  |

\*網掛けされた教科書は介護保険に関する記述あり。

### 3)教科書調査の方法

#### (1)調査方法

調査方法は対象教科書において、介護保険に関する記述があった教科書における学習指導要領の目標、内容について分析をする。教科は中学校の公民的分野、高等学校の家庭(家庭基礎、家庭総合、生活技術)、高等学校の公民(現代社会、倫理、政治・経済)である。

教科書の分析としては、「研究対象教科書において介護保険に関する記述のあった教科書数」、「記述のあった教科書における「もくじ」の内容」、「教科書と筆者との関係」、「教科書と出版者との関係」、「教科書内容分類(科目とカテゴリ、各教科書とカテゴリ)」、「教科書に記載されている図及び表一覧」についておこなう。

これらの結果より、教科書の内容と現状の介護保険制度との乖離についてや、あるべき介護保険制度に関する教育の方向性について考察する。研究対象教科書とは、中学校、高等学校の教科書の中に、「介護保険」の語の記述があるものである。

#### (2)調査対象教科書

中学校・高等学校の対象教科書は、中学校が139冊、高等学校が765冊であった。そのうち、介護保険に関する記述のあった教科書は中学校では、社会(公民的分野)の8冊であり、高等学校では家庭の19冊、公民(現代社会)16冊、公民(倫理)11冊、公民(政治・経済)15冊だった。この中で研究調査期間である2003年10月1日現在で出版されていない公民(現代社会)1冊と公民(政治・経済)10冊は対象外とした。以上より、分析調査の対象教科書は中学校8冊、高等学校55冊である。

## 4. 教科書調査の結果

### 1)研究対象教科書において介護保険に関する記述のあった教科書数

介護保険に関する記述のあった教科書は、総数51冊であった。記述のあった教科書の教科別内訳ははっきりと分かれる結果であった。

中学校においては、社会(公民的分野)においてのみ記述が認められ、高等学校では、家庭、公民(現代社会)、公民(倫理)、公民(政治・経済)で認めた(表3)。

中学・高等学校の家庭科では、中学校の家庭科においては介護保険に関する記述がないのに対し高等学校では指定教科書19冊中18冊において記述を認めた。

公民では、中学・高等学校ともに記述を認め、高等学校においては公民が現代社会、倫理、政治・経済の3分野に分かれているが、そのいずれにも記述されている教科書があった。中学校の社会(公民的分野)においては指定8冊中7冊に記述があった。高等学校の公民の中の現代社会は指定16冊中13冊(うち1冊は現在未発売)、倫理は指定11冊中6冊、政治・経済は指定15冊中5冊に記述があった。

表3 分析調査対象教科書数と介護保険に関する記述のあった教科書数

|                    | 中学校                  | 高等学校   |
|--------------------|----------------------|--|
| 対象教科書数             | 139冊                 | 765冊(第1部)  |
| 介護保険について記述のあった教科書数 | 社会(公民的分野)<br>指定8冊中7冊 | 家庭(家庭基礎) 指定10冊中10冊<br>家庭(家庭総合) 指定8冊中7冊<br>家庭(生活技術) 指定1冊中1冊<br>公民(現代社会) 指定16冊中13冊<br>(うち1冊は現在未発売)<br>公民(倫理) 指定11冊中6冊<br>公民(政治・経済) 指定15冊中5冊<br>(うち10冊は現在未発売) |
| 記述のあった教科書          | 7冊                   | 42冊  |

## 2) 記述のあった教科書における「もくじ」の内容

介護保険に関する記述のあった教科書の「もくじ」の内容を分類した。中学校の公民は高等学校の教科書の多くが編、章、大項目、中項目、小項目の5項目に別れているのに対し、編、章、大項目、小項目のほぼ4つに分類することができた。

中学校の公民の内容は、編は暮らしや生活に関する枠組みであり、章は福祉について、大項目、小項目は社会保障の一環として介護保険を取り上げている項目が多かった。

高等学校の家庭では家庭基礎、家庭総合、生活技術ともに、編においては「人」、「人生」、「生きる」などがキーワードとなっている。そこから章では「高齢者」、「高齢社会」へと発展し、大項目、中項目では「社会システム」、「福祉」が表れ小項目で「介護保険」についてあげられている。

高等学校の現代社会では、編においては「現代の社会」、「人間」、「人間としてのあり方」などがキーワードとなっている。そこから章では「国民福祉」、「福祉社会」へと発展し、大項目、中項目では「経済」、「社会保障」、「少子高齢化」が表れ小項目で「介護保険」、「高齢化」、「社会保障制度」についてあげられている。

高等学校の倫理では、編においては「現代の倫理」、「現代を生きる」などがキーワードとなっている。そこから章では「現代の諸課題」、「倫理」へと発展し、大項目、中項

目では「家族・地域社会」、「地域社会」が表れ小項目で「高齢社会」、「少子化」についてあげられている。

高等学校の政治・経済では、編においては「現代社会」などがキーワードとなっている。そこから章では「現代経済」、「現代社会」、「現代政治」へと発展し、大項目、中項目では「社会保障」、「少子高齢化」が表れ小項目で「社会保障制度」についてあげられている。

### 3)教科書と筆者との関係

中学校の公民(表 4)においては、対象 8 教科書中、介護保険についての記述があったものが 7 教科書で 7 教科書はすべてにおいて異なる出版者、著者であった。

高等学校の家庭(表 5)は家庭総合、家庭基礎、生活技術に分かれているため 1 人の筆者が 3 分野もしくは 2 分野を執筆していることがある。3 分野の教科書を執筆している著者は 1 名、2 分野を執筆している著者は 7 名だった。複数執筆をしている 8 名のうち、執筆教科書すべてにおいて介護保険に関して記述した著者は 7 名で、残り 1 名は家庭総合には記述がなく、家庭基礎にはあった。

高等学校の現代社会(表 6)では、同じ出版社が発行する教科書の著者が同じであるケースが 1 件あった。また、この著者は現代社会以外にも政治・経済の教科書も執筆しており、政治・経済の教科書においても介護保険に関する記述があった。

高等学校の倫理(表 7)では、9 教科書中 4 教科書に介護保険に関する記述があった。9 教科書とも出版社及び著者は同じだった。

高等学校の政治・経済(表 8)では、対象教科書の 5 教科書中すべてにおいて介護保険の記述があった。そのうち 1 教科書は現代社会の教科書を執筆している著者であり、出版社も同じであった。

表 4 中学校公民教科書 出版者及び著者代表

| 教科書      | 教科書名                   | 出版社 | 著者代表            |
|----------|------------------------|-----|-----------------|
| 公 901    | わたしたちの中学社会 公民的分野       | 日新  | 堀尾輝久            |
| 公 902    | 新しい社会 公民               | 東書  | 田邊裕             |
| 公 903    | 中学社会 公民的分野             | 大書  | 佐藤幸治            |
| 公 904    | 中学社会 公民 ともに生きる         | 教出  | 阿部肇 奥田義雄 笹山晴生   |
| ( 公 905) | 新 中学校 公民 日本の社会と世界      | 清水  | 中村研一 西脇保幸 大口勇次郎 |
| 公 906    | 社会科中学生の公民 地球市民をめざして最新版 | 帝国  | 谷本美彦            |
| 公 907    | 中学生の社会科・公民 現代の社会       | 日文  | 伊東光晴            |
| 公 908    | 中学 社会 新しい公民教科書         | 扶桑社 | 西部邁 佐伯啓思        |

表 5 高等学校家庭-教科書 出版者及び著者代表

| 教科書      | 教科書名                   | 出版社 | 著者代表      |
|----------|------------------------|-----|-----------|
| 家庭 001   | 家庭総合                   | 東書  | 牧野カツコ     |
| 家庭 002   | 家庭総合                   | 教図  | 櫻井純子      |
| 家庭 003   | 家庭総合 自分らしい生き方とパートナーシップ | 実教  | 宮本みち子     |
| 家庭 004   | 家庭総合 21                | 実教  | 春日寛       |
| 家庭 005   | 家庭総合 明日の生活を築く          | 開隆堂 | 金田利子 鶴田敦子 |
| 家庭 006   | 家庭総合 生活の創造をめざして        | 大修館 | 中間美砂子     |
| (家庭 007) | 家庭総合-ともに生きる-           | 一橋  | 一番ヶ瀬康子    |
| 家庭 008   | 高等学校 家庭総合 生活に豊かさをもとめて  | 第一  | 香川芳子      |
| 家庭 009   | 家庭基礎                   | 東書  | 牧野カツコ     |
| 家庭 010   | 家庭基礎                   | 教図  | 櫻井純子      |
| 家庭 011   | 家庭基礎 気づく・追求する・行動する     | 教図  | 武藤八重子     |
| 家庭 012   | 家庭基礎 自分らしい生き方とパートナーシップ | 実教  | 宮本みち子     |
| 家庭 013   | 家庭基礎 21                | 実教  | 春日寛       |
| 家庭 014   | 家庭基礎 明日の生活を築く          | 開隆堂 | 金田利子 鶴田敦子 |
| 家庭 015   | 家庭基礎 生活の創造をめざして        | 大修館 | 中間美砂子     |
| 家庭 016   | 家庭基礎-すこやかに生きる-         | 一橋  | 一番ヶ瀬康子    |
| 家庭 017   | これからの家庭基礎-あたらしい生活を求めて- | 一橋  | 竹中恵美子     |
| 家庭 018   | 高等学校 家庭基礎 自分らしく生きる     | 第一  | 香川芳子      |
| 家庭 019   | 生活技術                   | 教図  | 櫻井純子      |



表6 高等学校現代社会-教科書 出版者及び著者代表

| 教科書 No   | 教科書名                          | 出版社 | 著者代表                    |
|----------|-------------------------------|-----|-------------------------|
| 現社 001   | 現代社会                          | 東書  | 佐々木毅                    |
| 現社 002   | 高校現代社会                        | 実教  | 伊藤光晴                    |
| 現社 003   | 現代社会                          | 実教  | 堀尾輝久                    |
| 現社 004   | 現代社会                          | 三省堂 | 加藤哲郎 伊藤正直 中西新太郎         |
| (現社 005) | 現代社会 地球社会に生きる                 | 教出  | 河合秀和                    |
| 現社 007   | 高校生の新現代社会<br>—地球市民として生きる— 最新版 | 帝国  | 谷内達                     |
| 現社 008   | 現代社会                          | 山川  | 山崎廣明 平島健司 坂口正二郎 粕谷誠 濱井修 |
| 現社 009   | 現代社会 —21世紀を生きる—               | 数研  | 北村洋基                    |
| 現社 010   | 高等学校 現代社会                     | 数研  | 山本武利                    |
| 現社 011   | 高校現代社会—現代を考える—                | 一橋  | 二谷貞夫                    |
| 現社 012   | 高等学校 現代社会                     | 第一  | 阪上順夫                    |
| 現社 013   | 高等学校 新現代社会                    | 第一  | 阪上順夫                    |
| 現社 014   | 現代社会                          | 東学  | 馬場康雄 大瀧雅之               |
| 現社 015   | 新現代社会                         | 桐原  | 島野貞爾                    |

表7 高等学校倫理-教科書 出版者及び著者代表

| 教科書 No   | 教科書名                   | 出版社 | 著者代表      |
|----------|------------------------|-----|-----------|
| (倫理 001) | 倫理                     | 東書  | 平木幸二郎     |
| 倫理 002   | 倫理                     | 中教  | 勝部真長 持田行雄 |
| (倫理 003) | 倫理 自己を見つめて             | 教出  | 鷲田清一      |
| (倫理 004) | 高等学校 新倫理               | 清水  | 菅野貴明 山田忠彰 |
| (倫理 005) | 現代の倫理                  | 山川  | 濱井修       |
| 倫理 006   | 高等学校 倫理                | 数研  | 佐藤正英      |
| 倫理 007   | 高等学校 倫理                | 第一  | 式部久       |
| 倫理 008   | 倫理                     | 東学  | 湯浅泰雄      |
| (倫理 009) | 倫理                     | 実教  | 城塚登 古田光   |
| 倫理 010   | 高等学校現代倫理               | 清水  | 木村清孝 村上隆夫 |
| 倫理 011   | 倫理—現在(いま)を未来(あす)につなげる— | 一橋  | 高橋哲哉      |

表8 高等学校政経-教科書 出版者及び著者代表

| 教科書 No | 教科書名        | 出版社 | 著者代表      |
|--------|-------------|-----|-----------|
| 政経 001 | 政治・経済       | 実教  | 都留重人      |
| 政経 002 | 高等学校 新政治・経済 | 清水  | 大芝亮 大山礼子  |
| 政経 003 | 高等学校 政治・経済  | 数研  | 筒井若水      |
| 政経 004 | 高等学校 政治・経済  | 第一  | 阪上順夫 花輪俊哉 |
| 政経 005 | 新政治経済       | 桐原  | 野中俊彦      |

## 4)教科書と出版者との関係

介護保険に関する記述のある教科書を出版しているところは 20 社だった。内訳としては、中学校公民では 7 社、高等学校の家庭(家庭基礎、家庭総合、生活技術)は 7 社、現代

社会は10社、倫理は6社、政治・経済は5社だった。その中で介護保険に関する教科書を最も多く出版しているのは実教書籍株式会社(以下実教という)で7冊、次に株式会社第一学習社(以下第一という)が6冊、教育図書株式会社(以下教図という)が5冊、東京書籍株式会社(以下東書という)と数研出版株式会社(以下数研という)、一橋出版株式会社(以下一橋という)がそれぞれ4冊だった。2冊出版している出版社は6社、1冊の出版は7社だった。

介護保険に関する記述がない教科書を発行している出版社は6社だった。記述のない教科書数が1冊である出版社は4社で、2冊が1社、3冊が1社だった。

## 5)教科書内容分類

### (1)科目とカテゴリー(表9)

介護保険に関する期記述のある文章を抜き出し、一文章ずつカテゴリー別に分けた。カテゴリーは、介護保険法と参考図書<sup>22)23)</sup>の目次を参考に作成した。カテゴリー13項目と科目とが当てはまる文章数をあげたものである(表25)である。

カテゴリー別でみると、最も文章数が多かったのは「制度の創設の背景とねらい」で126文、次に「今後の課題」44文、「問題点」30文だった。逆に最も文章数が少なかったのは「介護保険事業計画」と「介護保険審査会」の3文だった。

科目別に見ると高等学校の家庭基礎が82文で最も多く、続いて現代社会70文、家庭総合54文だった。少なかったのは高等学校家庭の生活技術7文、公民の政治・経済25文、公民の倫理34文だった。

表9 科目とカテゴリー項目における文章数

| カテゴリー        | 教科 | 中学校 |      | 高等学校 |      |      |    | 合計 |      |
|--------------|----|-----|------|------|------|------|----|----|------|
|              |    | 公民  | 家庭   |      |      | 公民   |    |    |      |
|              |    |     | 家庭基礎 | 家庭総合 | 生活技術 | 現代社会 | 倫理 |    | 政治経済 |
| 制度の創設の背景とねらい |    | 27  | 24   | 14   | 0    | 33   | 18 | 10 | 126  |
| 保険者          |    | 1   | 5    | 2    | 0    | 1    | 0  | 1  | 10   |
| 介護保険事業計画     |    | 0   | 1    | 1    | 0    | 1    | 0  | 0  | 3    |
| 介護認定審査会      |    | 2   | 4    | 4    | 1    | 1    | 0  | 0  | 12   |
| 介護保険審査会      |    | 1   | 1    | 1    | 0    | 0    | 0  | 0  | 3    |
| 被保険者         |    | 3   | 5    | 6    | 1    | 1    | 0  | 1  | 17   |
| 要介護(要支援)認定   |    | 3   | 2    | 1    | 1    | 1    | 0  | 0  | 8    |

|                         |    |    |    |   |    |    |    |     |
|-------------------------|----|----|----|---|----|----|----|-----|
| 保険給付の種類と受給              | 0  | 4  | 4  | 1 | 1  | 0  | 1  | 11  |
| 介護報酬介護サービス<br>計画(ケアプラン) | 1  | 9  | 8  | 2 | 3  | 0  | 1  | 24  |
| 利用者(利用者負担)              | 1  | 10 | 8  | 1 | 7  | 0  | 3  | 30  |
| 指定事業者及び<br>介護保健施設       | 0  | 6  | 3  | 0 | 1  | 0  | 0  | 10  |
| 問題点                     | 7  | 1  | 2  | 0 | 11 | 5  | 4  | 30  |
| 今後の課題                   | 3  | 12 | 3  | 1 | 10 | 11 | 4  | 44  |
| 合計                      | 49 | 82 | 54 | 7 | 70 | 34 | 25 | 328 |

## (2)各教科書とカテゴリー

介護保険に関する記述のカテゴリーと各教科書との関係をみた(表10)。カテゴリーに該当する文章の数が多かった教科書は、中学校の公民の教科書である番号907番(以下公民907と略す)31文、高等学校の家庭の教科書である番号012番(以下家庭012と略す)18文、家庭の教科書である番号018番(以下家庭018と略す)15文だった。

公民907をみると、介護保険に関する「背景とねらい」については31文中13文と最も多くの割合を示した(42.0%)。家庭012においても最も多くの記述があった項目は「背景とねらい」で4文、家庭018は「課題」が最も多く5文だった。

表10 介護保険に関する記述内容のカテゴリーと各教科書との関係/

\*介護保険に関する記述がある文章を1とし、数字は文章数を示す。

|      | 制度の創設の背景とねらい |       | 保険者 | 介護保健事業計画書 | 介護保険認定審査会 | 介護保険審査会 | 被保険者 | 要介護認定 | 保険給付の種類と受給 | 介護報酬介護サービス計画 |          | 利用者(利用者負担) | 指定事業者及び介護保険施設 | 問題点 | 課題 | 合計 |
|------|--------------|-------|-----|-----------|-----------|---------|------|-------|------------|--------------|----------|------------|---------------|-----|----|----|
|      | 背景とねらい       | 制度の創設 |     |           |           |         |      |       |            | 介護支援専門員      | ケアプランの内容 |            |               |     |    |    |
| 公901 | 1            | 1     |     |           |           |         |      |       |            |              |          |            |               |     |    | 2  |
| 公902 | 1            | 1     |     |           |           |         |      |       |            |              |          |            |               |     |    | 2  |
| 公903 | 1            | 1     |     |           |           |         | 1    |       |            |              |          |            |               |     | 1  | 4  |
| 公904 | 1            | 2     |     |           |           |         |      |       |            |              |          |            |               |     |    | 3  |
| 公906 | 1            | 1     | 1   |           |           |         |      |       |            |              |          |            |               | 1   |    | 4  |
| 公907 | 13           | 2     |     |           | 2         | 1       | 2    | 3     |            |              | 1        | 1          |               | 5   | 1  | 31 |
| 公908 |              | 1     |     |           |           |         |      |       |            |              |          |            |               | 1   | 1  | 3  |

|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 家 001 | 2 | 1 |   |   | 1 |   |   | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 |   | 10 |
| 家 002 |   | 1 |   |   | 1 |   | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |   | 1 | 9  |
| 家 003 | 1 | 1 | 1 |   | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |   | 2 | 1 | 14 |
| 家 004 | 1 | 1 | 1 |   |   | 1 |   | 1 |   | 1 |   |   | 1 | 7  |
| 家 005 |   | 1 |   | 1 | 1 |   | 1 |   |   |   | 2 |   | 1 | 7  |
| 家 006 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2 |   |   | 3  |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
| 家 008 | 1 | 2 |   |   |   |   | 2 |   |   |   | 1 |   |   | 6  |
| 家 009 | 1 | 1 |   |   | 1 |   |   |   | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 10 |
| 家 010 | 1 | 1 |   |   | 1 |   |   | 1 | 1 | 1 | 1 |   |   | 7  |
| 家 011 |   | 1 |   |   |   |   |   | 1 |   |   |   |   | 1 | 3  |
| 家 012 | 4 | 1 | 2 |   | 1 | 1 |   | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 18 |
| 家 013 | 1 | 2 | 1 |   |   |   | 1 | 1 |   | 1 |   |   | 1 | 8  |
| 家 014 |   | 1 |   | 1 | 1 |   | 1 |   |   |   | 2 |   | 1 | 7  |
| 家 015 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   |   | 2  |
| 家 016 | 1 | 1 | 2 |   |   |   | 2 | 1 |   |   | 1 | 1 |   | 9  |
| 家 017 | 2 | 1 |   |   |   |   |   | 1 |   |   | 1 |   | 2 | 7  |
| 家 018 | 2 | 3 |   |   |   |   | 1 |   |   | 1 | 1 | 2 | 5 | 15 |
| 家 019 |   |   |   |   | 1 |   | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |   | 1 | 8  |
| 現 001 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 2  |
| 現 002 | 2 | 1 |   |   | 1 |   |   | 1 | 1 | 1 | 2 |   | 2 | 11 |
| 現 003 | 1 | 2 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 4  |
| 現 004 | 2 | 1 |   |   |   |   | 1 |   |   |   |   |   | 3 | 9  |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
| 現 007 | 1 | 1 |   |   |   |   |   | 1 |   |   |   | 1 | 7 | 11 |
| 現 008 | 4 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   | 3 |   | 1 | 9  |
| 現 009 | 1 |   |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2  |
| 現 010 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   |   | 1  |
| 現 011 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2  |
| 現 012 | 1 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2  |
| 現 013 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   | 1 | 3  |
| 現 014 | 1 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 3  |
| 現 015 | 6 | 2 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2 | 11 |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
| 倫 002 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 3  |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
| 倫 006 | 4 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 2 | 6  |
| 倫 007 | 2 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 4 | 7  |
| 倫 008 | 6 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 8  |
|       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
| 倫 010 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 4 | 4  |
| 倫 011 | 3 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 4  |
| 政 001 | 1 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   | 3  |
| 政 002 |   | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 | 2  |
| 政 003 | 1 | 1 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 |   | 3  |
| 政 004 |   | 1 | 1 |   |   |   | 1 |   |   |   | 2 | 1 | 3 | 9  |
| 政 005 | 3 | 1 |   |   |   |   |   | 1 |   | 1 | 1 | 1 | 1 | 8  |

|    |    |    |    |   |    |   |    |   |    |   |    |    |    |    |    |     |
|----|----|----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|----|----|----|----|-----|
| 合計 | 76 | 50 | 10 | 3 | 12 | 3 | 17 | 8 | 11 | 8 | 16 | 30 | 10 | 30 | 44 | 328 |
|----|----|----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|----|----|----|----|-----|

公—中学校公民

基—高等学校家庭基礎

総—高等学校家庭総合

生—高等学校家庭生活技術

現—高等学校公民現代社会

倫—高等学校公民倫理

政—高等学校公民政治・経済

#### 6)教科書に記載されている図及び表一覧(表11)

介護保険に関する記述のあった教科書の中には、介護保険の仕組みやサービスの流れなどが図や写真、表を使って表しているものが24教科書あった。中学校の公民においては5教科書、高等学校の家庭(家庭基礎、家庭総合、生活技術)13教科書、現代社会5教科書、政治・経済1教科書だった。図、写真、表に分けた時、一番多いものは図で、24教科書中20教科書に記載があった。表は8教科書、写真は5教科書だった。

内容をみると、介護保険制度の流れや仕組みについて20教科書、要介護度の区分について4教科書、介護サービスの利用について3教科書が主なものであった。

表11 教科書に記載されている図及び表一覧

|         |  |
|---------|--|
| 政治005   | 図：介護保険制度のしくみ                                     |
| 公民901   | 写真：介護保険の実施を伝える新聞                                 |
| 公民902   | 図：介護保険制度のしくみ                                     |
| 公民903   | 図：介護保険制度のしくみ                                     |
| 公民906   | 図：介護保険のしくみ<br>写真：デイサービスで入浴の介護を受ける高齢者             |
| 公民907   | 図：(題名なし)<br>表：要介護度の区分<br>表：介護保険で受けることのできるおもなサービス |
| 現代社会002 | 写真：在宅介護サービス<br>表：最重度の介護が必要と認定されたケアプランの例          |
| 現代社会003 | 図：公的介護保険のしくみ                                     |
| 現代社会007 | 図：介護保険のしくみ<br>写真：ヘルパーの介護で入浴する老人                  |
| 現代社会008 | 図：介護保険のしくみ<br>写真：介護保険法関連の新聞記事                    |
| 現代社会015 | 図：介護保険のしくみ                                       |
| 家庭001   | 図：公的介護保険のしくみ<br>表：在宅サービスの利用例(要介護5の場合)            |
| 家庭002   | 図：「介護保険制度」のしくみ<br>表：要介護度の区分、支給限度額、サービスの例、認定状況    |

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
|        | 図：介護サービスを利用するには                       |
| 家庭 003 | 図：介護保険制度のしくみ                          |
| 家庭 006 | 図：介護保険と福祉サービスを受けるまでの流れ                |
| 家庭 008 | 図：介護保険サービスの流れ<br>図：介護サービスの利用          |
| 家庭 009 | 図：公的介護保険のしくみ<br>表：在宅サービスの利用例（要介護5の場合） |
| 家庭 010 | 表：要介護度の区分、支給限度額、サービスの例                |
| 家庭 011 | 表：入所サービス施設の種類<br>図：介護保険制度のサービスの利用の流れ  |
| 家庭 012 | 図：介護保険制度のしくみ                          |
| 家庭 016 | 図：介護保険利用の申請からサービス開始まで                 |
| 家庭 017 | 図：介護保険給付の手続き                          |
| 家庭 018 | 図：介護サービスの流れ                           |
| 家庭 019 | 表：要介護度の区分、支給限度額、サービスの例                |

## 5. 教科書調査の考察

### 1) 学習指導要領に記載されている目標・内容

教科書の内容は、介護保険について記述のある教科書であるという共通性はあるが、介護保険に関する取り上げ方や内容というものは中学校と高等学校、教科や科目によって異なってくる。それは学習指導要領において求められているもの、目標や内容が異なるからである。その各教科や科目の目標・内容について考察してみる。

#### (1) 中学校の公民

中学校の公民では、4つの目標があげられている。介護保険は2つめの目標である、「民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。」の「国民の生活の向上と経済活動と個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目」の部分及び、4つ目の目標である「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」の現代の社会的事象に対する関心を高めという部分に基づき記述されていると考える。またその2箇所に関しては、教科書に記述されている内容ともつながっており以下のように記されている。前者については、個人と社会生活という項目に「家族や地域社会などの機能を扱い、人間は本来社会的存在であることに着目させ、個人と社会とのかかわりについて考えさせる。その際、現在の家族制度における個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取決めの重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる」とあり、後者は国民生活と福祉という項目に「国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせる。その際、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税

の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせる」とある。

内容の解説を読むと、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務を取り上げ財政について考えて行く必要性があげられている。また教科書の記述を見ても、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえてうえで「財政」について積極的に考えさせて行こうとする配慮がある。社会生活に関しては、身近な社会集団として家族、学校地域社会などを取り上げるとともに、個人が結びついて社会が生まれ、社会生活が営まれていることを理解させ、社会生活を円滑にするために互いの合意に基づいてルールが作られていることなど日常の具体的な事例を取り上げ、考えさせていく必要性がある<sup>24)</sup>。そして中学校における公民は、今後高等学校においても継続して学んで行く科目であることから、公民的分野の導入部として位置づけるためにも、身近な問題から考える必要性がある<sup>25)</sup>。

介護保険について取り上げることで、以下の学びがある。

- ・家族や地域社会などの機能について扱うことで、人間は本来社会的存在であることに着目することができ、個人と社会とのかかわりについて考える機会となる。
- ・現在の家族制度における個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取決めの重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付く機会となる。
- ・国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えることができる。
- ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解することで、限られた財源の配分という観点から財政について考えることができる。

## (2) 高等学校の家庭

高等学校の家庭は、家庭という教科が家庭基礎、家庭総合、生活技術の3科目に分かれそれぞれ目標が上げられている。介護保険については教科全体目標の「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」のもと記述されている。

### (2)-1 家庭基礎

家庭基礎では「人の一生と家族・福祉」の項目の中で「人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。」の部分に記述がある。この記述は生活技術の内容と同じものである。また高齢者の生活と福祉の中項目で「高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解さ

せ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる」という部分の記述に基づいて書かれている。

#### (2)－2 家庭総合

家庭総合では「高齢者の生活と福祉」の大項目の中に「高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解させるとともに、介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる」とあり、中項目では「高齢者の心身の特徴と生活」、「高齢者の福祉」、「高齢者の介護の基礎」、小項目ではそれぞれ「加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかわりについて考えさせる」、「高齢社会の現状と課題について考えさせ、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解させる」、「日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミュニケーションの重要性について認識させ、高齢者と適切にかかわることができるようにする」という部分に基づいて書かれている。

#### (2)－3 生活技術

生活技術では生活技術では「人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」を目標としており、この目標のもと、「人の一生と家族・福祉」では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識していけるような方向付けが必要である。

家庭では、高齢者福祉に関する法律や制度の詳細よりも、地域活動を通し高齢者への日常生活の介助や食事、着脱衣、移動などの実習を通して、高齢者の特徴や福祉に関して興味を持ってもらうことを力点においており<sup>26)27)</sup>、高齢者とのふれあいや交流などの実践的な活動を取り入れながら、介護保険という一つの仕組みを高齢者が生活するうえでの一つの社会保障制度の例として取り上げているといえる。

介護保険について取り上げることで、以下の学びがある。

- ・ 高齢者の生活と福祉について理解できる。
- ・ 高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解し、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識できる。
- ・ 高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解できる。
- ・ 介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識できる。



- ・加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識し、高齢者との適切なかかわりについて考えることができる。
- ・高齢社会の現状と課題について考え、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解できる。
- ・日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミュニケーションの重要性について認識でき、高齢者と適切にかかわることができるようになる。

### (3) 高等学校の公民

高等学校の公民では、「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」という教科の目標に、3つの科目それぞれの目標・内容があげられている。

#### (3)－1 現代社会

現代社会では、「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、「現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」という目標のもと、「現代に生きる私たちの課題」では、「現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させることが内容に記されている。「現代の社会と人間としての在り方生き方」では、「大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化についての理解、基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全についての理解」、などに基づいて教科書には介護保険について記述されている。

現代社会の内容の特徴は、「青年期の意義」というものを現代社会の諸問題と結びつけて考えている点である。介護保険はまさに現代社会の問題の一つである。少子高齢化や高度情報化、国際化などの社会的事象に対する関心をもち、多角的な角度から物事をみる能力、つまり偏りのない総合的な思考力を培うことが求められている<sup>20)</sup>。様々な問題が自分自身の生き方に関わっていることを考え、民主社会において自ら生きることについて考えていく必要がある。介護保険を取り上げることは、少子高齢化など現代の社会が抱える問題の一つとして具体性があり、学びとなる<sup>21)</sup>。現代社会で青年の意義や現代社会の問題について考えて行く必要があるが、現代社会の科目だけでなく公民の他科目や家庭などの科目とともに関連させながら学んで行く必要がある。

介護保険について取り上げることで、以下の学びがある。

- ・現代の社会と人間についての理解を深めることができる。

- ・現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を学ぶことができる。
- ・現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通し、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚することができる。
- ・大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化についての理解ができる。
- ・基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全についての理解ができる。

### (3) -2 倫理

倫理では「人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」を目標としている。倫理の内容は2つに別れており、そのうち「現代と倫理」の中に、「人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせること、「生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせること」などに基づいて教科書には介護保険について記述されている。

倫理の内容の特徴は、倫理的な見方や考え方をみにつけるために、家族についてや地域社会、情報社会について取り上げそれを題材に世界の様々な文化の理解や福祉に関する倫理的課題を学んでいく方向性があるということである。倫理を考える上での取掛かりとして宗教や哲学者の思想、日本人の考え方などを学び、そこから具体的に現代社会の問題とあわせ考えて学んで行く方向性がみられる。

介護保険について取り上げることで、以下の学びがある。

- ・民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けることができる。
- ・他者と共に生きる自己の生き方に関わる一つの課題として考えを深めることができる。
- ・生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めることができる。

### (3)－3 政治・経済

政治・経済では「広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること」を目標としている。政治・経済は3つの内容に別れている。その中の1つである「現代社会の諸課題」には、「政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる」ことを主題においている。具体的には「大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて考察させる」ことが書かれている。

政治・経済の内容の特徴は、現代社会における日本の経済や政治における状況の中から課題について考え、政治や経済について公正かつ客観的な見方や考え方ができるように記されていることである。

介護保険について取り上げることで、以下の学びがある。

- ・ 大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて考察することができる。

## 2) 研究対象教科書の内訳

研究対象教科書において介護保険に関する記述のあった教科書数は総数49冊であった。そのうち記述のあった教科書は中学校では公民、高等学校では家庭(家庭基礎、家庭総合、生活技術)、公民(現代社会、倫理、政治・経済)のみと教科別内訳がはっきりと分かれる結果であった。これは学習指導要領のなかで、その教科ごとに目標、科目ごとに目標と内容が示されており、学習指導要領の中で「高齢者」や「福祉」、「社会保障制度」についてあげられている教科に記述が認められたと言える。

例えば同じ教科であっても小学校、中学校、高等学校では介護保険に関する記述があるものとなないものがある。記述が認められた教科書は中学校においては公民、高等学校では、家庭、公民(現代社会)、公民(倫理)、公民(政治・経済)であるが、中学校の家庭においては介護保険に関する記述がないのに対し高等学校では指定教科書19冊中18冊において記述を認めた。これは高等学校が家庭という科目から「家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわり」を理解することが目標<sup>29)</sup>なのに対し、中学校の家庭では「生活に必要な基礎的な知識と技術の修得をとおして生活と技術とのかかわりについて理解をする」こと

が目標<sup>30)</sup>であり、中学校で学んだことをさらに応用発展したものが高等学校の家庭であるといえる。

また指導要領の中では高等学校が「人の一生と家族・福祉」の項の「高齢者の生活と福祉」のなかで「高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。」と高齢者の身体的、心理的、社会的特長と生活の概要を学び、高齢化の特徴をふまえた今後の課題や福祉の理念とサービスの概要を学ぶことがあげられている。一方、中学校では「家族と家庭生活」についての目標はあるが、自分自身の成長とともに家族や家庭生活との関わりについて考えるところにとどまっている。

公民については、中学・高等学校ともに記述を認め、高等学校においては公民が現代社会、倫理、政治・経済の3科目に分かれているが、そのいずれにも記述されている教科書があった。高等学校が公民を3つの分野に分けていることで、それぞれ介護保険について学ぶ視点が異なり、より広い視点から深い学びが得られるような要領になっている。

### 3) 記述のあった教科書における「もくじ」の内容

中学校の公民は高等学校の教科書の多くが編、章、大項目、中項目、小項目の5項目に別れているのに対し、編、章、大項目、小項目のほぼ4つに分類することができた。これは、中学校の学習が高等学校への導入部としての位置づけがあることがわかる。そのため高等学校の教科書ではより深い学びをすることになり、項目数も細分化され増加している。中学校の公民の内容は、編は暮らしや生活に関する枠組みであり、章は福祉について、大項目、小項目は社会保障の一環として介護保険を取り上げている場合が多く、「介護保険」という言葉を使った小項目は7教科書中1つだけであった。

それに対し高等学校の家庭では、編においては「人」、「人生」、「生きる」などがキーワードとなっており、そこから章では「高齢者」、「高齢社会」へと発展し、大項目、中項目では「社会システム」、「福祉」が表れ小項目で「介護保険」についてあげられている教科書は19教科書中10教科書で、「介護」という言葉は残り9教科書中4教科書あった。

高等学校の現代社会では、編においては「現代の社会」、「人間」、「人間としてのあり方」などがキーワードとなっており、章では「国民福祉」、「福祉社会」へと発展し、大項目、中項目では「経済」、「社会保障」、「少子高齢化」が表れ小項目で「介護保険」についてあげられている教科書は2教科書であった。

倫理では、編においては「現代の倫理」、「現代を生きる」などがキーワードとなっており、章では「現代の諸課題」、「倫理」へと発展、大項目、中項目では「家族・地域社会」、「地域社会」が表れ小項目で「介護保険」についての項目は0だった。「高齢」という言葉が6教科書中すべてにおいて使われていた。

政治・経済では、編においては「現代社会」などがキーワードとなっており、章では「現代経済」、「現代社会」、「現代政治」へと発展し、大項目、中項目では「社会保障」、「少子高齢化」が表れ小項目で「介護保険」についての項目はなかった。「社会保障」という言葉が使われている教科書が5教科書中3教科書だった。

このもくじの小項目で「介護保険」という言葉を使っている項目の多い科目は、教科書の中で介護保険について記述のある量が比例しており、同じく学習指導要領で野目標や内容において介護保険に関する項目が多い教科はもくじの小項目において使われている回数が多かった。

#### 4)教科書と筆者との関係

介護保険の記述に関して、教科書を執筆している著者によって偏りがあるか検討した。複数の教科書を執筆している著者は9名で、そのうち執筆教科書すべてにおいて介護保険について書いている著者は8名で、1名は著書2冊中1冊は介護保険について書いておらず、もう1冊は記述していた。

また、介護保険に関して記述していない執筆者は、各1冊の著書に書かれていないだけで、他の教科書との関連性はみられなかった。

以上の2点より、「著者により特徴があり、介護保険に関する記述がある人、ない人という特徴が見られる」という仮説である、記述の有無と著者との関連性を証明することは、絶対数の少なさ、教科書を重複指定執筆している著者が少ないこと、1名に関しては介護保険について書いている教科書と、書いていない教科書があるためこの分析からの判断は難しい。

#### 5)教科書と出版者との関係

介護保険に関する記述のある教科書を出版しているところと、教科書との関係をみてみる。出版社の株式会社清水書院(以下清水という)は介護保険について触れられていない教科書が3冊と最も多かったが、執筆者は3冊とも異なり、記述がないことと執筆者との関連性を表現することは難しい。同様に教育出版株式会社(以下教出という)は2冊の教科書ともに記述がなかったが、著者は異なっていた。このことから4)で述べたこと同様、著者と記述の有無に関する判断は難しい。

#### 6)教科書内容分類

教科書の内容も科目のカテゴリー別でみると、最も文章数が多かったのは「制度の創設の背景とねらい」で127文、次に「今後の課題」44文、「問題点」30文だった。

すべての科目で「制度の創設の背景とねらい」カテゴリーの項目が多いという結果は、介護保険の詳しい性質に関してよりも、介護保険の背景や体系を知ることが高齢者の特徴

や、社会保障制度について学ぶことが目的であることを象徴している。例えば倫理では介護保険について学ぶことで「社会参加と奉仕」や「家族・地域社会」について目を向け、自己実現や幸福などについての倫理的な見方や考え方を身に付けることを目標にしている。学習指導要領の目標、内容と照らし合わせてみると、ここまで学ばせたいという目標、内容にそった記述がなされていることがわかる。

介護保険に関する記述のカテゴリーと各教科書との関係性からは、カテゴリー数の多い、少ないは数的に判断できるが、その数字から教科書の特色まで判断することは、一概に統一して比較することの難しさより、特色として言い切ることは難しい。

#### 7)教科書に記載されている図及び表一覧

中学校の公民においては5教科書、高等学校の家庭13教科書、現代社会5教科書、政治・経済1教科書だった。図、写真、表に分けた時、一番多いものは図で、24教科書中20教科書に記載があった。表は8教科書、写真は5教科書だった。これは一般的にわかりにくいと意識を持つ介護保険について、図や表を多用することにより、中学校・高等学校の生徒達が自分の問題として考えられるような工夫である。また内容をみてみると、介護保険制度の流れや仕組みについて20教科書、要介護度の区分について4教科書、介護サービスの利用について3教科書あったが、この3点の基本的事項について理解を求めていることや、図や表にしたほうが理解を得られやすいものを配慮し、工夫されている。

#### v. まとめ

##### 1. あるべき介護保険制度に関する教育の方向性

今回、教科書の分析を行い教育していく上で、どのようなものが求められているかを考える機会となった。

介護保険制度について学ぶことは、多くの視点を学ぶ上での題材の一つであると考え、介護保険について学ぶことで、家族や地域社会などの機能を学び、人間は本来社会的な位置に存在するものであることに着目し、個人と社会との関わりについて考える機会となったり、現在の家族制度における個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取決めの重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付く機会ともなる。

また国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考え、高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解をし、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識する機会にもなる。そして介護保険制度の開始は、現代社会の一つの問題として自己との関わりに着目し、介護保険を課題の例として設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習をおこなう機会を得ることができるのである。そこから現代社会に対する関心を高め、いかに自分らしく生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚す

ることができると思う。

このような学びを導くため、1つの教科での学びに終わらせるのではなく、各教科及び科目において連動させ、社会体系について学んでいけるような方向付けが必要である。

## 2. あるべき高齢化社会に関する教育の方向性

介護保険制度は高齢化社会に対応して始まった制度と考えると、施設中心の福祉から在宅への移行が進んでいる現状は、途上段階ではあるが望ましい福祉の形になってきている。家族介護から社会的介護、専門化による介護へと移り変わり、社会全体で「介護」を支えていこうと考える時、そのケアを行う担い手は専門性を保障するための技術と責任を持たなくてはならない。福祉や介護の専門家として介護福祉士や介護支援専門員が国家資格として位置づけられている点を見ても、今後の専門家としての期待を感じられずにはいられない。

すべての人が介護に関わる時代であり、これからは介護に関して自分の家族だけではなく、地域で高齢者や療養者を支えて行く時代、高齢者や療養者の近隣住民も関わって行く時代となる。そのような時代となる時、中学校・高等学校で学んだ介護保険制度のことが生涯を通じてそのような意味を持つだろうか。普通教科の中に介護保険について学ぶことが求められてきており、「福祉」を学ぶことは今や特別なことではなくなった。今回の調査で、現在中学校・高等学校に通っている生徒達が手にしている教科書に書かれている介護保険について取り上げただけでも、膨大な量であった。それは現代社会において介護に関する意味を問う事を求められている結果である。

生徒達が社会にでた時、どのように活かしていけるか。この点について一番学んでほしいことは、現代日本における背景を基本としたものの考え方である。今回の調査でもわかるように、どの教科書においても「制度の創設の背景とねらい」が最も多くの記述があったカテゴリーであった。この結果から見ても、中学校・高等学校において介護保険について教える意味は、高齢社会に世界的に見ても最も早いスピードで到達したわが国において、今後必要不可欠である高齢者問題を、経済面、社会保障、地域交流、自己形成など多角的な角度から物事を考えていくことが、それに値すると思う。

地域全体で支えていく福祉国家を作り上げていくためにも、まず個々の意識的なものの見方が必要であり、今後の教育の方向性に期待すると共に、自らそれに関与して行きたいと考える。

## Ⅶ. 文献

- 1)内閣府編：「暮らしと社会」シリーズ平成15年版高齢社会白書、P2、ぎょうせい、2003.
- 2)岸恵美子、神山幸枝、土屋紀子、渡邊亮一：在宅要介護高齢者の介護者の介護継続意思に関わる要因の分析、自治医大看護短期大学紀要、11～22、1999.

- 3)内閣府編：「暮らしと社会」シリーズ平成15年版高齢社会白書、P39、ぎょうせい、2003.
- 4)關戸啓子：高齢者用福祉施設で行う中・高生のボランティア活動の意味 若者の人間形成の視点から、ホスピスケアと在宅ケア、11(2) P186、2003.
- 5)大辻隆夫、塚原昌代：高校生のボランティア活動の意義、こころの健康、18(1)、P88、2003.
- 6)小林不二也、長谷川守、高橋てる子、中村美代子、宮川百合恵、二村敦朗：中高生を対象にした施設体験を実施して、厚生省精神・神経疾患研究10年度研究報告書 筋ジストロフィー患者のQOLの向上に関する総合的研究、201-202、1999.
- 7)古川孝二郎、石川博徳、高尾征義、上野勝弘、羽根正治、前田義章：学生ボランティアの育成について、血液事業、21(2)P93、1998.
- 8)岩田みどり：ボランティア体験による障害児・者に対する学生の態度・認識への影響に関する研究、日本赤十字武蔵野短期大学紀要、14、73-78、2001.
- 9)清水美紀、宮川栄子、三村富美恵、渡辺利弥、渡邊一美、原藤昭彦、相原昭子、山岸松永：重症心身障害者に対する学生が持つイメージの変化 ボランティア活動との関係、医療、55(2) P277、2001.
- 10)大嶽昇弘、堀信宏、林典雄、鶴飼建志、長谷部武久、橋本貴幸、山田みゆき：ボランティア活動を経験した学生へのアンケート調査、理学療法学27(2)、P252、2000.
- 11)北川かほる、三瓶まり、福井典子、南前恵子、前田隆子、笠置綱清：ボランティア体験が学生にもたらす教育効果、鳥取大学医療技術短期大学部紀要、32、35-40、2000.
- 12)吉永明美、鳴海義一、梯佳寿之、矢ヶ部和代、平石愉香、藤井直樹：学生ボランティア活用の見直し、厚生労働省精神・神経疾患研究委託費による11~13年度研究報告書 筋ジストロフィー患者のケアシステムに関する総合的研究、204-205、2002.
- 13)文部科学省ホームページ-中学校用教科書目録(平成14~17年度用)はしがき  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/index.htm)
- 14)文部科学省ホームページ-高等学校用教科書目録(平成16年度使用)はしがき  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/index.htm)
- 15)文部科学省ホームページ-その他の出版物、学習指導要領  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/youryou/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/youryou/index.htm)
- 16)文部科学省ホームページ-中学校学習指導要領 第2節公民的分野  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/youryou/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/youryou/index.htm)
- 17)文部科学省ホームページ-高等学校学習指導要領 第9節家庭  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/youryou/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/youryou/index.htm)
- 18)文部科学省ホームページ-高等学校学習指導要領 第3節公民  
[http://www.next.go.jp/a\\_menu/shotou/youryou/index.htm](http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/youryou/index.htm)
- 19)白石淳：高等学校家庭科における高齢者福祉教育に関する一考察：「家庭一般」の教



- 科書の内容を通して、介護福祉学、3 (1) 89-95、1996.
- 20) 文部省告示：「中学校学習指導要領」、財務省印刷局、2002.
- 21) 文部省告示：「高等学校学習指導要領」、財務省印刷局、2001.
- 22) Sozialgesetzbuch Elftes Buch、Soziale Pflegeversicherung 1994.
- 23) 介護保険研究会：「わかりやすい介護保険制度 Q&A」、中央法規、2002.
- 24) 澁澤文隆、佐伯真人、大杉昭英：「改訂中学校学習指導要領の展開 社会科編」、明治図書、2002.
- 25) 文部省：「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—社会編—」、大阪書籍株式会社、2002.
- 26) 文部省：「高等学校学習指導要領解説—家庭編—」、開隆堂出版株式会社、2000.
- 27) 河野公子：「改訂高等学校学習指導要領の展開 家庭科編」、明治図書、2002.
- 28) 文部省：「高等学校学習指導要領解説—公民編—」、実教出版株式会社、1999.
- 29) 大杉昭英、七條正典：「改訂高等学校学習指導要領の展開 公民科編」、明治図書、2000.
- 30) 文部省：「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—技術・家庭編—」、東京書籍株式会社、1999.